

区 分	担当課	評価	評価の説明
1 子どもの育成支援			
<ul style="list-style-type: none"> ・函館市子ども条例の理念に基づき、安心して子どもを生き育てることができる社会を実現するため、子どもや大人が条例の趣旨や大人の役割等について、理解を深めるよう、条例の趣旨の広報・啓発に努めます。 	子ども企画課	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生保護者向けの「函館市子育て支援ガイド」や子育て応援ハンドブック「すくすく手帳」に条例の趣旨を掲載したほか、母子健康手帳や様々な子育てリーフレットなどをセットにして配布している「マザーズ・サポート・バック」に子ども条例の趣旨を記載したメッセージカードを貼付するなど、条例の広報・啓発に努めた。 ・市内の小学5年生には、啓発用のクリアファイルや概要版チラシを配布し、啓発に努めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・「第2期函館市子ども・子育て支援事業計画」に基づく施策の実施状況について毎年度取りまとめ、公表するとともに、函館市子ども・子育て会議において調査審議するなど、計画の適切な進行管理に努めます。 	子ども企画課	B	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度(2021年度)、令和4年度(2022年度)見込みの施策の実施状況を取りまとめたほか、令和4年(2022年)11月に開催(書面)した子ども・子育て会議の中で、施策の実施状況等を報告し、市HPに公表するなど、計画の適正な進行管理に努めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・児童館を活用した遊び・スポーツを通じた子どもの健全育成や地域における子育て支援に取り組むほか、放課後児童クラブ(学童保育所)の実施場所を確保するなど、安全・安心な子どもの居場所づくりを進めます。 	次世代育成課	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症対策を講じ、遊びの制限の中で、スポーツ行事などを通じ、子どもの健全育成を図るとともに、小学生等に対する遊びの指導に加え、乳幼児と保護者がふれあい、交流できる場を設けるなど、子育て支援に取り組んだほか、放課後児童クラブ(学童保育所)の実施場所を4か所増設するなど、安全・安心な子どもの居場所づくりを進めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育所、認定こども園および学童保育所等に対する支援の充実に努めます。 	子どもサービス課 次世代育成課	A	<ul style="list-style-type: none"> ・運営法人が実施する老朽化した認定こども園の改築や感染症拡大防止対策のための設備整備に対する整備費補助を行った。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図るため、保育所や放課後児童クラブ等に対し、感染防止用の備品等の購入にかかる費用等について補助を行った。 ・保育士不足の改善を図るため、潜在保育士向けの就職支援研修や施設長等による就労相談、学生と保育士とのオンラインパネルディスカッション、「マイナビ進学ライブ2022・しごとフェスタ」への参加を実施した。 ・保育士・幼稚園教諭等に対し、賃上げ効果が継続される取組を行うことを前提とした新たな処遇改善を図った。 ・コロナ禍における原油価格・物価高騰等の状況の中、保護者負担を増やすことなく、栄養バランスや量を保った給食を提供するため、保育所等に対して食材費などの支援を行った。 ・老朽化が進む民家等で実施している放課後児童クラブの施設維持補修について補助を行った。

区 分	担当課	評価	評価の説明
<p>2 ひとり親家庭の自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ひとり親家庭に対する子育て, 生活支援, 就業支援, 経済的支援の充実に努めるとともに, 各種事業の効果的なPRや「ひとり親家庭サポート・ステーション」により, 情報提供や相談体制の充実に努めます。 	<p>子育て支援課</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ひとり親家庭の子育て, 生活支援, 就業支援, 経済的支援のほか, 各種事業のPRや「ひとり親家庭サポート・ステーション」による情報提供や相談体制を確保した。 ひとり親家庭サポート・ステーションについて, 多様なニーズに対応するため, 第2・第4木曜日について, 事前予約のある場合に時間延長し, オンライン相談を開始した。 国の制度による子育て世帯生活支援特別給付金や北海道の財源を活用して北海道子育て世帯臨時特別給付金を支給したほか, 本市の独自事業として, 子育て世帯物価高騰等緊急給付金および子育て世帯冬季生活支援特別給付金を支給した。
<p>3 子どもの貧困対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの貧困対策について, 入学準備給付金や中学校卒業生入学準備等給付金, 給付型奨学金の支給のほか, 学童保育所利用料の軽減や子ども医療費助成, ひとり親家庭に対する各種助成などの子育て世帯に対する経済的支援の充実, さらには相談支援体制の整備を図るなど, 子どもの貧困対策に取り組みます。 	<p>子ども企画課 子どもサービス課 子育て支援課 次世代育成課</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入学準備給付金および中学校卒業生入学準備等給付金の給付を行った。 児童手当等各種手当の支給を行った。 国の制度による子育て世帯生活支援特別給付金, 北海道の財源を活用した北海道子育て世帯臨時特別給付金のほか, 本市独自事業の子育て世帯物価高騰等緊急給付金や子育て世帯冬季生活支援特別給付金, 生活・修学環境が経済的に厳しい状況におかれている学生を対象に, 大学等を通じて食料品などの支援を行った。 子どもの医療費について, 令和4年(2022年)8月診療分から, 所得制限を設けたうえでの無償化の対象を小学生までから中学生までに拡大した。 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため, 保育所や認定こども園, 放課後児童クラブの利用を控えた保護者に対し, 利用料の軽減を図った。
<p>4 児童虐待防止対策の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもとその家庭等に対し相談・支援を行う「子ども家庭総合支援拠点」として, 関係機関と連携強化を図り, 支援の必要な子どもや家庭に対する適切な支援の実施や児童虐待の発生予防と早期発見・早期対応に取り組み, 児童虐待防止対策の充実に努めます。 	<p>次世代育成課</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭総合支援拠点を設置し体制強化を図った。 子どもなんでも相談110番フリーダイヤルについて, 周知カードを市内小中高の児童生徒に配布し, 各学校等にポスター掲示を依頼し, 子ども自らが相談しやすい体制強化を図ったほか, 体罰禁止についてのリーフレットを保護者向けに配布した。 要保護児童対策地域協議会を開催し, 関係機関による連携のもと, 要保護児童等に対する適切な支援を行った。 ヤングケアラーの現状等の理解を深めるため, 講演会を開催するなど, ヤングケアラーへの支援に向けた取り組みを進めた。

区 分	担当課	評価	評価の説明
5 DVおよび性暴力被害者への支援			
<ul style="list-style-type: none"> 配偶者暴力相談支援センターでの支援を推進するとともに、関係機関と連携し、DV被害者を支援します。 	子育て支援課	B	<ul style="list-style-type: none"> 配偶者暴力相談支援センターにおいて随時相談を受け付け、DV証明発行を行ったほか、必要に応じ相談者をシェルター等の関係機関へつなげた。 「函館市配偶者等からの暴力対策関係機関協議会」代表者会議を书面開催し、関係機関の連携強化を図るなど被害者支援に取り組んだ。
<ul style="list-style-type: none"> 「函館性暴力被害防止対策協議会」の関係機関と連携を強化し、実働組織である「函館・道南SART」を活用し性暴力被害者を支援するほか、性暴力の防止に関する予防教育および啓発活動を行います。 	子育て支援課	B	<ul style="list-style-type: none"> 性暴力被害者を支援するチームである「函館・道南SART」を活用した地域の性暴力被害者支援に取り組んだほか、函館性暴力被害防止対策協議会の構成機関による性暴力被害防止に関わる活動を通じて予防教育、啓発に取り組んだ。
6 母子保健の推進			
<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代包括支援センターとして「マザーズ・サポート・ステーション」の更なる相談支援体制の充実を図るとともに、妊産婦健康診査の実施、産後ケア事業の拡充、乳幼児家庭訪問の充実や育児に関する情報提供・健康相談により、出産前から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図るほか、不妊相談窓口を開設し、不妊や不育症に悩む方への相談支援に努めます。 	母子保健課	B	<ul style="list-style-type: none"> 不妊や不育の精神的負担の軽減のため、不妊相談窓口を設置し、医師や保健師等による来所や電話による相談に対応した。 産後に家族等からの十分な援助を受けられない産婦の産後ケアにおいて、産婦のニーズを踏まえ、宿泊型に加えて訪問型・通所型の支援を開始した。 「出産・子育て応援給付金給付事業」の実施により、これまで行ってきた伴走型支援（妊娠届出時やこんにちは赤ちゃん訪問）をより丁寧に実施した。
<ul style="list-style-type: none"> 新生児聴覚検査費用の助成や乳幼児健康診査により、乳幼児期の疾病や障がいを早期に発見し、適切な療育に結びつけるとともに、未受診者の状況把握を徹底し、母親等への子育て支援に努めます。 	母子保健課	B	<ul style="list-style-type: none"> 新生児聴覚検査費用の助成や、3歳児健康診査における視覚検査でのスポットビジョンスクリーナーの活用により、異常の早期発見に努め、適切な療育に結びつけることができた。 乳幼児健診は、疾病や異常の早期発見にとどまらず、貴重な育児支援の場となっていることから、感染防止対策を講じながら実施を継続し、受診率低下の防止に努めるとともに、乳幼児健診未受診児の状況確認を適宜行い、適切な支援に努めた。
<ul style="list-style-type: none"> 思春期の心と体の健康づくりのため、保健・医療・教育等関係機関との連携を強化し、思春期の子どもたちへの保健対策を充実します。 	母子保健課	B	<ul style="list-style-type: none"> 思春期保健連絡会を計画通り年2回開催し、関係機関との情報交換や学習会の開催により、思春期の子ども達に関わる保健・医療・教育等関係機関との連携を図った。 中学生を対象とした「思春期教室」において、オンライン授業の形態も活用しながら、コロナ禍での事業の継続に努めた。
<ul style="list-style-type: none"> 子どもを対象とした定期予防接種の接種率の向上に努め、ワクチンで防ぐことができる感染症から子どもたちを守ります。 	母子保健課	B	<ul style="list-style-type: none"> 個別通知による積極的勧奨や乳幼児健診時の未接種者への勧奨等により、コロナ禍でも接種を遅らせることのないよう、周知啓発に努めた。 子宮頸がんワクチンの積極的勧奨の再開に伴い、接種対象者への適切な情報提供を行った。

区 分	担当課	評価	評価の説明
<p>7 歳入金の公平・公正な徴収</p> <p>・保育所入所負担金や奨学金・入学準備金など, 歳入金の公平・公正な徴収に努めます。</p>	<p>子ども 企画課</p> <p>子ども サービス課</p> <p>子育て 支援課</p>	<p>B</p>	<p>・未収金対策として文書催告および差押えを実施した。</p> <p>・保育所入所負担金については, 滞納者に催告書を送付し分割納付に結び付けるとともに, 分割納付に応じない者に対して差押えを実施するなど, 債権管理の強化を図った。</p> <p>・母子父子寡婦福祉資金貸付金については, 滞納者に対し支払督促を行った。</p> <p>○令和4年度(2022年度)収納率</p> <p>【保育所入所負担金】</p> <p>現年度分 98.5% (当初目標 96.0%) 過年度分 17.6% (当初目標 19.0%)</p> <p>【母子父子寡婦特会】</p> <p>現年度分 84.3% (当初目標 75.9%) 過年度分 12.0% (当初目標 9.1%)</p> <p>【入学準備金】</p> <p>現年度分 91.8% (当初目標 95.0%) 過年度分 11.6% (当初目標 16.0%)</p> <p>【奨学特会】</p> <p>現年度分 86.3% (当初目標 86.5%) 過年度分 14.3% (当初目標 15.7%)</p>